

政七年を以て生まれ、幼名作次郎。天保十年津田氏の嗣となり、同年脱走して京に赴き、儒家の僕となつて苦學し、廿五歳の時大坂の緒方洪庵の門に入り、三年の後中國・西國に遊び、再び大坂に歸りて緒方氏の塾頭に進み、業大に進んで郷に還つた。是に於いて藩侯の侍醫に任じ、二十人扶持を受け、慶應三年卯辰山養生所が起つてから後、藩及び縣の醫務に盡くす所多かつた。明治十二年十月歿、齡五十六。

ツダシヨウザエモン 津田庄左衛門 初めて前田利長に仕へて六百五十石を領した。子孫相繼いで藩に仕へる。

ツダシヨウリュウ 津田正流 藩の御醫師として五十人扶持を受け、享保十六年六十九歳を以て歿。子孫壽軒尙賢・正孫・恂庵・昌溪造周等相繼いだ。

ツダタカマサ 津田孝正 通稱三郎左衛門。玄蕃正忠の七男牛之助から五代。祿三百石。不行狀なるを以て寶曆七年逼塞を命ぜられ、明和元年三月十一日四十六歳で知行を召放された。

ツダタケアキラ 津田孟昭 初諱正卿・正加・逸角・右兵衛・玄蕃と稱した。父正眞の歿後八千石を襲ぎ、前田綱紀に仕へ、天和三年若年寄に任じ、貞享二年定火消となり、翌年二千石を増して一万石を受け、家老に進んだが、元祿三年罷め、寶永中神護寺天徳院請取火消に任じ、享保五年復家老となり、世子の傳を兼ね、七年加判の員に列した。九年退老し、剃髮して義門と號し、養老秩七百石を受け、同年八月四日歿。年七十四。孟昭、前田綱紀に仕へること五十年、人と爲り側近

偉、極めて器度があつた。亦讀書を好み、仙令と號し、居所を嘉樂亭といひ、別に温故齋と號し、五十川剛伯・京儒島山輔寛に従遊した。

ツダタクロク 津田太郎九郎 定番御馬廻で知行百五十石を受けた。天和元年七月加藤彦左衛門の子次郎左衛門が、太郎九郎の家にて町人を殺し、金子を奪うてその骸を埋め置いたこと發覺し、前田頼母長恵に御預となり、後切腹を命ぜられた。↓カトウヒコザエモン 加藤彦左衛門。

ツダチカミツ 津田近光 通稱一幽。江戸の處士で、前田綱紀に召出され五十人扶持を領した。子孫相繼いで藩に仕へる。

ツダチユウセツ 津田中節 幼名九萬四郎、後是齋と改め、董園と號した。津田豹阿彌の嫡子隨分齋煥の二男で、天保四年十月本家壽得の後を承けて醫を業とし、名を道順と改めたが、後老いて道寛と稱し、家を嫡子道順に譲つた。文久二年九月廿三日歿、行年五十四。

ツダドウジュン 津田道順 初世名は親孝、京師に於いて醫を業とし、道寛と稱し、明曆三年七月九日四十四歳を以て歿した。子諱は親明、父の業を襲いで休寛と稱し、後道順と改めたが、子孫皆その名を繼いだ。道順は金澤に移つて外科及び小兒科を専門とし、傍ら鰻煉を製ぎ、享保二年十二月廿三日七十三歳を以て歿した。弟光明家を襲ぎ、光明に三子あつたが、長は天し、仲子養は別に家を興し、季子隆又は常綱宗家を承けた。

ツダトヨツネ 津田豊經 通稱伊右衛門。寛延元年父七郎左衛門の遺知四百石を襲ぎ、大小將に任ぜられた。寶曆十三年五月朔日豊

經、梅内藏太の家に至り、歸途亡氣したるを以て、九月十六日知行を召放され、二十人扶持を賜うて明和三年二月組外に班し、天明六年七月外出留御免、文化二年九月十九日歿した。

ツダナガオキ 津田長意 初め織田左近將監又は下野守と稱し、後に與右衛門と改めた。織田左馬九の子、信長の從弟であつた。豊臣秀吉・蒲生氏郷に仕へ、次いで前田利家に臣事し、千五百石を受け、後七百五十石を寶淺野將監に譲つた。寛永十四年三月五日八十一歳を以て歿。子孫世々藩に仕へる。

ツダナリナホ 津田成直 通稱五郎兵衛。父生駒圖書は豊臣秀頼に仕へ、大坂に於いて討死した。成直寛永十八年前田光高に仕へ、氏を改めて七百石を領し、萬治三年大小將、延寶三年御馬廻に列し、貞享元年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

ツダノブナリ 津田信成 通稱鏑三郎・貞進・次郎左衛門・宇兵衛。文政九年父宇兵衛信那の祿百五十石を襲ぎ、組外に列し、天保三年御馬廻に轉じ、七年定檢地奉行、九年御近習番、十二年御武具奉行等に任じ、弘化元年七月歿、歳四十二。信成は幹齋と號し、諸士系譜二十卷を著した。

ツダノブヒサ 津田信尚 通稱孫十郎。父孫十郎信政は豊臣秀吉に仕へ、法鉢して宗夢と稱したが、元和元年大坂にて討死した。信尚寛永四年前田利常に召出され、五百石を領し、十四年歿。子孫世々藩に仕へる。

ツダノリナガ 津田敬脩 通稱膳太郎・忠三郎・修理・玄蕃。玄蕃孟昭の子。享保八年六月新知千石を受け、九年七月父致仕の後を襲ぎ

て一萬石となり、同年若年寄に任じ、家老に進み、廿年十月之を免じ、寛保二年七月廿五日六十歳を以て歿した。

ツダホウケイ 津田鳳卿 通稱亮之助、宇は那儀、梧崗と號した。享和三年明倫堂句讀加人となり、文化元年助教に擢でられ、同年父の祿二百石を襲いで御馬廻に班し、次いで文政四年書物奉行加人に任じ、五年本役となり尊經閣文庫を管し、天保四年又南土藏奉行を兼ね、五年祿五十石を加へ、十一年御馬廻使役兼御書物方御用となつた。鳳卿和漢の書に於いて涉獵せぬことなく、藩中の士庶典故の明らかならざるものあれば、就いて之を問ふを常とした。又能く韓非子を読み、韓非子解詁全書二十一巻を著し、藩侯の命により古文書を蒐集して汲古合編十二冊となし、或は史蹟を踏査し、掠部考古遊記・笠間郷遊記・大野郷訪古遊記・遊梅田洞記・遊三國嶺記・蟹谷郷遊記・石川訪古遊記を作つた。弘化四年四月廿三日齡六十九を以て歿。

ツダマサアキラ 津田正昭 通稱求馬・内記。玄蕃敬脩の二男。同姓政太夫正堅の養子となり、元文二年遺知千石を襲ぎ、大小將・大小將番頭・御歩頭・御小將頭に歴任し、寶曆八年兄玄蕃將順の名跡を繼いで一萬石を領し、自分知を除かれた。九年八月御家老に任じ、明和七年十月八日五十二歳で歿。

ツダマサカタ 津田正堅 通稱政太夫。元祿十二年父求馬義眞の遺知千石を襲ぎ、御書請奉行・定番馬廻御番頭・御先簡頭に歴任し、元文二年九月十四日七十四歳で歿した。

ツダマサカツ 津田正勝 一諱は義忠。通稱清次又は刑部。初め美濃洲侯に仕し、織田